

理科 第6学年 物の燃え方と空気 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「物が燃える前後で、空気はどう変わるだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単元で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：教師が管理した燃焼実験の前後で気体の組成を調べた記録を比較する。火が消えたという事実だけで空気が全部なくなったとせず、酸素と二酸化炭素の変化を根拠に考察する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。A(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：ろうそくが消えたら酸素が完全にゼロになったと考える場合、測定値と断定を分ける。容器内の全気体が二酸化炭素に変わるとは説明しない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。A(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。記録に合う燃焼の説明へ直す活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：火気と熱い器具は教師が管理し、換気・消火・保護具を準備する。密閉した容器を加熱しない。においを直接吸い込まない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、A(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：教師が管理した燃焼実験の前後で気体の組成を調べた記録を比較する。火が消えたという事実だけで空気が全部なくなったとせず、酸素と二酸化炭素の変化を根拠に考察する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全7時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「物が燃える前後で、空気はどう変わるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「物が燃える前後で、空気はどう変わるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。記録に合う燃焼の説明へ直す活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

